

人権週間の取組～各学年より～

4・5組 自分と友達の違いを認めて、大切にしよう

自分と相手は考えが違うことがあることを実感するために、「知ってるつもり」というアクティビティを行いました。質問について「かんたん」「ふつう」「むずかしい」どの気持ちかを考える活動です。

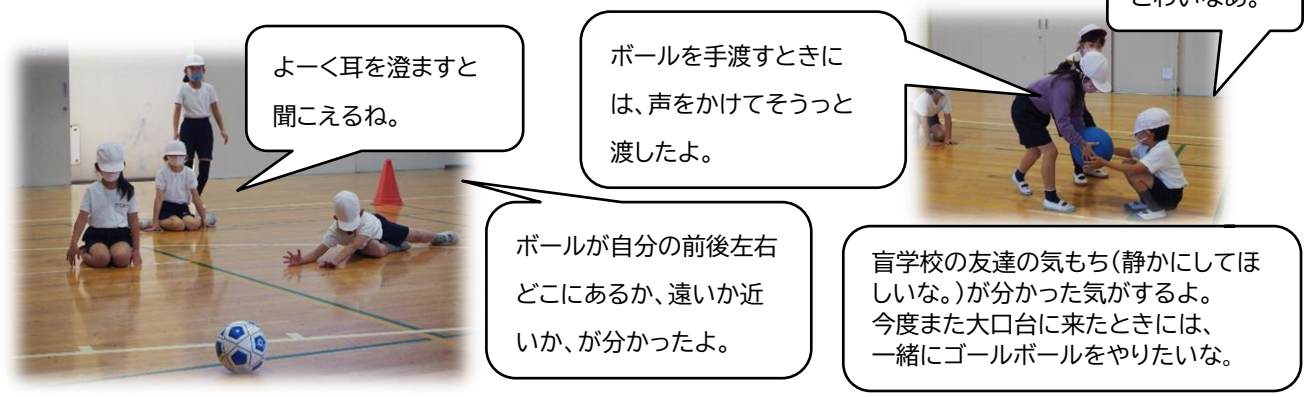
質問 ・むずかしい折り紙をおる ・日直スピーチをする ・朝会でおはなしをする ・わからないことを質問する

子どもたちは、「好きなことや得意なことは、人それぞれ違っていたんだ。」や、「自分が得意なことを苦手な子もいるんだ。」と、友達の考えや感じ方を知り、驚いている様子でした。そして、相手の考えを大切に生活していこうと考えていました。



1年 パラスポーツやってみよう ～ゴールボール～

1年生は夏休み明けに、パラスポーツの話題で盛り上がっていたため、ゴールボールを体験しました。1年生には、盲特別支援学校の副学籍交流のお友達もいます。「目が見えない・見えづらいって、どういうことなのか。自分たちにはどんなことができるのか。」体験を通して学びました。



2年 「ゴールボール」を通して

2年生は「目が見えない人たちに、自分がどういうことができるのか考えよう」というめあてで、「ゴールボール」を行いました。

授業で行った「ゴールボール」は、周りの人の手助けによってゲームが進行していきます。周りで見ている子どもたちもふくめ、声を出さずに耳を澄まして鈴の音を聞き取り、鈴が入ったボールの場所を予想してボールを受けたり、ボールを投げたりしました。



「目かくしをしている間、何も見えなくてこわかった。でも、ボールをわたしてくれるとき、肩をトントンってやって、やさしく声をかけてくれてホッとした。」「ゴールボールをパラリンピックで見た時には、かんたんそうだったけど、やったらすごくむずかしくてびっくりした。目をかくしたら何も見えなくて、音だけがたよりになることが分かった。」との感想をもち、実際に自分たちができることは何かを考えることができました。

3年 友達の考えも大切にして、よさを認め合おう

学校生活で起きた出来事について、登場人物の言動や気持ちを考えることを通して、相手の気持ちを思いやりたり押し量ったりすることの大切さに気づくためのワークを行いました。登場人物のAさんの気持ちを考えることで、普段自分がしている何気ない言動が、相手を傷つけている場合があるということに気が付くことができました。

算数の時間にかんたんな計算問題を間違えたことを、友だちに笑われてしまったAさん。また、休み時間にはおにごっこでおににされ続け、一人でさびしく教室に帰ってしまいました…。

【Aさんのために私たちができること】

- ・Aさんの味方になって、仲間外れにしない。
- ・Aさんに声をかけてはげます。
- ・みんなにやさしく注意する。
- ・走ることが苦手なAさんとおにごっこで同じ速さで走る。

【Aさんへの手紙】

- ・ぼくは、Aさんの味方だから、いやなことがあったらいつでも言ってね。
- ・まちがえるのは、Aさんだけじゃないよ。みんなまちがえることはあるし、まちがえることは悪いことじゃないよ。
- ・Aさんが困っているときは、いつでも相談してね。それでもだめなら、大人の人に一緒に言おうね！
- ・Aさんは、勉強も頑張れるから大丈夫だよ。あと、もしずっとおににねらわれ続けたら、わたしが助けてあげるから、走る練習がんばろう！



ワークを通して、やさしさや思いやりの気持ちを考え、それを素直な言葉にして伝えることができました。

4年 自分も相手も大切にする伝え方を考えよう

4年生はロールプレイングを通して、伝え方を考える学習を行いました。列に並んでいる人と列に横入りしてしまった人という設定で、はっきり言えないAさん、過度に怒りケンカになりそうなBさん、自分の気持ちを素直に伝えるCさんの3パターンがありました。どの子も役になりきって演技を行いました。

子どもたちは、「Cさんのように友達に優しく接して良いクラスにしたい。」や「伝え方を変えるだけで相手への伝わり方が変わることが分かったからこれから意識していきたい。」などと活動を振り返っていました。自分の気持ちをきちんと伝えることの大切さに気づいたようでした。



5年 色々な国の人の立場にたって考えよう

5年生は、「色々な国の人とともに生きる」をテーマに活動しました。外国語の問診票を書く活動を通して、子どもたちからは「分からない!」「適当に書こうかな…」と色々なつぶやきが出てきました。その後、日本語の問診票を見て「分かる」とほっとする。「困っているときにこうやって助けてもらえたら、本当にうれしい。」と、色々な人の立場を考えた社会の在り方について考えを深めていました。

あなたは、39.5度の熱が3日間続き、悪寒・咳・下痢の症状があります。



問診票の内容の一部

- ①「Que especialista gostaria de visitor hoje?」
- ②「Marque com onde voce tem o problema.」

(①本日は何科を受診されますか? ②当てはまるところに をつけてください。)

旧ユーゴスラヴィア地域のじゃんけんにも挑戦! ~ルールが分かると楽しいね~

Zimi,Zami,
Zum!



- ①3人以上で行う。
- ②かけ声に合わせてゲーカパーを出す。
- ③一人だけ違うものを出した人の勝ち。

6年 こまっている人はいないかな?

6年生は、世の中には多様な人が一緒に暮らしているということについて考えました。マタニティマークや四つ葉マークなどについて知り、その人がどのようなことに困っているのか、どのように支援してほしいのかについて考えました。



「こまっている人はいないかな?」の活動では、車いすの方や高齢者にどのような支援をすればいいのかについて話し合いました。「小さな子どもは言葉が難しすぎて理解できないんじゃないかな?」「この人は外国の人で日本語が分かっていないんじゃないかな?」など、相手の状況や気持ちを考えてどうしてあげたらよいかについて学びました。

普段意識していないけど、こまっている人はたくさんいるかもしれないね。



人権講話～盲特別支援学校 伊藤正俊先生～

12月2日木曜日、盲特別支援学校副校長 伊藤正俊先生をお招きし、人権講話をしていただきました。

話題になっているドラマのシーンや盲学校に通っている方の目の見え方の画像などを観ることで、より具体的にイメージしながらお話を聞くことができました。講話の概要を紹介します。

みなさん、盲特別支援学校で撮影している「恋です。ヤンキー君と白杖ガール」というドラマを知っていますか。主人公のユキコさんは盲学校に通う高校3年生で、視覚に障害があり白杖を持っています。

そのドラマの中で、ユキコさんが大好きな花がたくさん咲いている公園に行きたいと思っているのに諦めてしまう場面が出てきます。なぜユキコさんは諦めてしまったのでしょうか。

なんと公園の入口を自転車がふさいでいたのです。目が見える人は、自転車をよけて進めばよいのですが、目の見えない人、見えにくい人は自転車にぶつかってしまい前に進めません。

障害のある人が暮らしにくいのは、障害のせいではありません。誰もが、暮らし、働き、訪れても困らない安心できる環境を整えることができれば、障害はなくなります。それが「バリアフリーな社会」です。

今日は横浜市の「ふくまちガイド」を参考に、バリアフリーな社会を目指すための4つのポイントをお話します。

1つ目は「みんなちがって当たり前」です。みなさん、盲学校に通っている人は全員、目が見えない人だと思いませんか。実は目がほとんど見えない人は全体の10%ほどで、その他の人は弱視と言って、見えにくい人たちです。全体がぼやけて見える人、周りは見えないけど中心だけはっきり見える人、ある特定の角度からしか見えない人、離れた方が見える人、など見え方は一人ひとり違います。だからサポートの仕方も一人ひとり違ってきます。

2つ目は「一緒に活動する」です。1つ目に話した見え方のことも、盲学校にいれば自然に気づくことができるし、分からないことがあったら聞くこともできます。これからも交流を深めて、お互いのことを知る機会が増えてほしいと思います。

3つ目は「まずやってみる」です。もし自分が見えなかったら、見えにくかったらという視点で、街を歩いてほしいと思います。もちろん車いすだったら、日本語が分からなかったら、赤ちゃんを連れていたら、ということでもいいです。みんなが暮らしやすくするためのアイデアが浮かぶかもしれません。そして街で困っている人を見つけたら勇気をもって声をかけてみるのもいいかもしれません。きっと新しい発見があると思います。

4つ目は「もっとバリアフリー」です。7月にJR大宮駅にあるものができました。それは何でしょう。

正解はホームドアです。目が見えない人、見えにくい人にとって、実は電車に乗るのは命がけです。一歩間違えばホームから落ちる可能性があるからです。ホームドアがあれば小さい子どもやお年寄りもきっと安心して電車に乗ることができると思います。バリアフリー化を進めることは、多くの人の助けになるのです。

今は、まだ全ての駅にホームドアがついている訳ではありません。これからもバリアフリー化を進め、困っている人が少なくなしてほしいと思います。

最後に盲特別支援学校6年生が作ったポスターを紹介したいと思います。

視覚障害者のための点字ブロック、誘導ブロックがあってもそこに物があつたら、その役目を果たすことはできません。盲特別支援学校の児童生徒は、学校へ行くことができなくなってしまうかもしれないのです。

この話を聞いた皆さんが想像力を働かせて、街のバリアフリー化を進めてもらえるとうれしいです。みんなで取り組みれば、誰もが安心して暮らせる街に近づいていくと思います。

